

4. 都立砂川高等学校での事例

(1) 年度初めのアンケート

情報Bの授業に関連したアンケート24項目、IT推進校としてのアンケート38項目について別々に実施した。昨年度までは、TTで授業をおこなっていたので、アンケート作成については相方の先生に作成してもらっていたが、今年度は授業は1人で受け持っているので、作成、実施、処理を1人でやらなければいけなかった。しかし、REASの利用により、作業負担はかなり軽減された。アンケート実施前の準備では、REASのサイトにアクセスしてアンケート項目を入力し、回答方法の設定をおこなった。アンケート実施の際は、ショートカットを生徒の共有フォルダに保存しておき、そこからアンケートページへ行かせた。実施後は、データをcsvファイルでダウンロードし、エクセルで集計・分析を行った。インターネット上にあるので、アンケート作成は自宅で行うことができたので、前日の夜に準備をすることができた。

(2) 授業ごとの課題

本校での情報Bの授業は、1年次に45分×2コマ連続を週1回ずつ行っている(2単位)。2コマ連続の授業では生徒の集中力を維持させる工夫が必要である。そこで、本校の情報Bの授業では、毎回授業の冒頭にその日の授業の課題を明示し、授業終了時に回答してもらうようにしている。その課題を提出するときの手段としても、REASを活用している。授業開始時に送付している授業内容メールにリンクを付けておき、回答を記入する時間になったら、そこをクリックして回答を記入する。また、授業の内容や授業の流れによって、全員の回答を授業時間内に提示し、いくつかを取り上げてコメントを付け、授業のまとめとすることもある。REASでは、あらかじめ表示させる項目を指定しておくことができるので、入力した組番号や出席番号を非表示にし、課題の回答のみを表示するようにしている。

(2) 授業ごとのリフレクション

授業の最後に上の課題の他に、授業の感想や授業を受けて考えたことを書いて提出してもらうようにしている(授業リフレクション)。ここでもREASを利用している。ただし、ただの感想ではなく、授業の振り返りを行うように指導している。授業内容の定着のために、自分で授業を振り返り、具体的な感想あるいは具体的に考えたことをアウトプットさせている。だから、この授業リフレクションも評価を付けている。ただし、2点満点。単なる一言感想(楽しかった、面白かった、よかった等)は0点とし、具体性がないもの(いろいろと勉強になった等)は1点としている。このようなことを毎行っているので、データを取り出すのが学校だけではなく自宅でも取り出せるのはとても有り難い。ちなみに、入力の際には氏名を入力はさせていない。この授業リフレクションには毎回簡単なコメントをつけて、次回の授業で生徒にフィードバックしている。

(3) 今後の活用予定

①レディネス調べ

授業の最後に次回の授業で行う内容に関するアンケートを2, 3問(選択方式)で行い、次回の授業の導入部分として使う。このことで、授業で扱う素材を生徒にとってより身近なものとするができる。

②授業理解度チェック

国分寺高校の時田先生が行っているように、授業の最後に○、×式、あるいは選択式で2, 3問授業理解度確認チェックを行う。授業で学習した知識だけでなく授業の内容を理解していればこんなこともわかるだろうという質問も行う。この結果も何らかの形で生徒にフィードバックする。

(4) REASを使うメリットと課題

メリット

- ①事前準備を行う場所や時間の制限がない(自宅でも可能)。
- ②メンテナンスの必要がない。
- ③アンケート作成が容易である。
- ④結果を csv データでいつでもダウンロードできる。
- ⑤インターネット接続可能な環境なら、どこでも利用できる。

課題

- ①生徒へのフィードバック(現在は一度エクセルで加工し、各自の結果を印刷して配布している)